

# 緑化だより

No.143 平成30年10月号



アケボノソウ

10月 休園日はありません

- 季節の花(フジバカマ)
- 昆虫の話(色が変わる!?クツワムシ)
- 小さな世界こけ(ヤマトフタマタゴケ  
ムチゴケ)
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

ひろしま 緑化の 森

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp> E-mail [hiroshima@ryokka-c.jp](mailto:hiroshima@ryokka-c.jp)



# 季節の花

## フジバカマ

「萩の花 尾花 葛花(くずばな)撫子の花 女郎花

また藤袴(ふぢばかま) 朝顔の花」( 旋頭歌 )

山上 憶良 万葉集 卷8:1538

秋の野原で、指を折り子供たちに七種の草花を教えている、憶良の子供好きの姿が思い浮かぶような、ほのぼのとした歌です。万葉集では自然の花の美しさを詠っていますが、源氏物語のなかでは、夕霧が玉鬘に求婚した歌があります。

「同じ野の 露にやつるる 藤袴 あはれはかけよ かごとばかりも」

ここでは藤袴色の喪服を着た美しい女性の玉鬘にたとえています。

フジバカマ(藤袴)はキク科ヒヨドリバナ属の多年草で、「秋の七草」の一つとして、万葉の時代から人々に親しまれてきました。フジバカマの名は藤色の袴の意で、筒状の花を袴に見立て藤色と合わせてつけられました。

中国名は蘭草、香草です。蘭という漢字は、本来、フジバカマを指していましたが、江戸時代にすり替えられて、現在では、ラン科の植物になっています。

原産地は中国～朝鮮半島、関東地方以西の本州、四国、九州に分布しています。花は8月～10月に大きな花序に淡い紫紅色の小さな花をつけます。茎には毛がなく、3裂の葉が対になってついているのが特徴です。生乾きの茎葉にはクマリンの香り(桜餅の葉の香り)があり、中国や古代日本では芳香剤として用いられました。利尿剤、漢方薬としても利用されます。

フジバカマはかつては日本各地の河原などに群生していましたが、今では自生に適した環境が少なくなり激減しています。環境省のレッドリスト準絶滅危惧種に指定されています。

フジバカマと同属には次のものがあります。全国的にどこでも見られるヒヨドリバナ、湿った場所で見られるサワヒヨドリ、高い山では、葉が輪生しているヨツバヒヨドリが見られます。「フジバカマ」として観賞用に園芸店で入手できるのは、ほとんどの場合は本種ではなく、同属の他種または本種との雑種です(上村)



フジバカマの花



フジバカマの葉

# 昆虫の話

## 色が変わる! ?クツワムシ

ススキが穂を出し、クズの花が咲き、夜には鳴く虫たちが大合唱する秋の季節。クズの葉が覆い繁る空き地から「ガチャガチャガチャガチャ」と大音量が聞こえてきます。この鳴き声の主はクツワムシ、童謡「虫の声」でも紹介される代表的な秋の鳴く虫です。

彼らはキリギリスのなかまです。身近に見られる鳴く虫の中では最大の種類で、ずんぐりむっくりした体つきはまるで葉っぱの様です。彼らを初めて捕まえた時、その大きさからとても感動した記憶があります。しかし、その感動はすぐに後悔に変わりました。意気揚々と家に



持ち帰ったのはいいものの、しばらくすると家中にその鳴き声が響きわたり、とても寝られたものではありません。広い荒地でもうるさく感じるほどなので、狭い部屋の中ではなおさらです。結局すぐに草むらに逃がすことになりました。

そんな思い出深い「クツワムシ」なのですが、彼らは突然色が変わる虫なのです。

彼らの幼虫はほとんどすべてが緑色をしています。緑のクズの葉の中で彼らを見つけることは困難です。そして晩夏の頃、彼らが成虫になったときも彼らの色は緑色です。まだまだクズも青々と茂り、彼らの姿を隠しています。しかし、秋、鳴いている彼らを捕まえるとすべて茶色なのです。緑のクツワムシはどこに行ったのでしょうか。そうです、彼らは脱皮をせずに色が変わる不思議な虫なのです。クズが枯れ、落ち葉の積もる中では緑の体は目立ちます。変化した茶色の体が保護色となるのです。彼らの姿がどのように変わっていくのかについてはわかっていません。

飼育をしても気がつくまで緑だったものが茶色になってしまっているのです。このクツワムシの変化はこんちゅう館の職員の中でも大きな謎となっています。(広島市森林公園こんちゅう館 藤井)



緑色のクツワムシ



茶色のクツワムシ

## 小さな世界 こけ

苔類(たいりい)というと、ゼニゴケやジャゴケのような大きくて、コンブのようなコケを想像しがちですが、小さくてかわいい苔類のほうが種類もたくさんあります。その中から緑化センターでも見ることのできる2種を紹介します。

### ヤマトフタマタゴケ

薄暗くやや湿った場所の樹幹や岩に着生し、海苔がへばりついているように見えます。乾くと暗緑色で硬そうですが、雨の後などには薄緑色で別のコケの様です。幅1mm、長さ1~2cmで先が二つに分かれながら、重なり合って着生しています。葉と茎の区別がない平たい葉状体のコケです。雌雄同株のため、同じ葉の裏に、半球状の雄器と、丸いイガグリ頭の様な胞子体を保護する雌の苞葉が見られることがあります。



ヤマトフタマタゴケ(イガグリ頭の雌の苞葉)

### ムチゴケ

薄暗くやや湿った岩上や朽木、斜面で見られる。肉眼でも判別できる濃緑色の大きなコケで茎は二叉に分岐し、重なるように左右につく葉の先は鋸歯があります。葉の裏には透明で鋸歯のある腹葉があり、茎の下からひものような鞭(べん)枝が垂れます。これが名前の由来です。(山根)



鋸歯のある透明な腹葉



ムチゴケ(鞭枝が垂れ下がる)

# 研修会のご案内

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 10月 7日(日)『秋のきのこ教室』<br/>園内で採集したきのこの名前や食毒を知ろう<br/>※ 自由参加・無料、採集用カゴ持参</li> <li>○ 10月 15日(月)『10月の自然探勝』<br/>森林を育てる土壌は誰が作る？<br/>※ 自由参加・無料</li> <li>○ 10月 21日(日)『秋のハイキング』<br/>秋の三本木山を歩こう<br/>※ 自由参加・無料</li> <li>○ 10月 27日(土)『つづらふじでカゴ作り』<br/>曲げても折れないツツラフジでカゴを作ろう<br/>※ 要予約 (先着 15組)・材料費 1,500円</li> <li>○ 10月 27日(土)『第4回ひろしま遊学の森<br/>こども写生大会』<br/>秋の緑化センターを描こう<br/>※ 自由参加・無料、画材持参(画用紙以外)</li> <li>○ 10月 28日(日)『どんぐりクッキング』<br/>秋を食べよう<br/>※ 要予約 (先着 30名)・無料</li> </ul> | <p>10:00～14:00 第3駐車場 集合<br/>講師：きのこアドバイザー<br/>川上 嘉章</p> <p>10:00～12:00 学習展示館前 集合<br/>講師：森林植物研究家<br/>埤田 宏</p> <p>10:00～12:00 学習展示館前 集合<br/>講師：環境カウンセラー<br/>自然観察指導員<br/>和田 秀次</p> <p>10:00～14:00 学習室 集合<br/>講師：つづらふじ造形作家<br/>飛河 道雄</p> <p>10:00～12:00 緑の相談所 集合<br/>講師：元中国新聞図画教室 指導審査員<br/>横山 直江</p> <p>10:00～12:00 学習室 集合<br/>講師：日本シェアリングネイチャー協会 トレーナー<br/>住吉 和子</p> |
|---|---|

## ◎ 展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

- ・ つづらふじ 手作りカゴ作品展 9月9日(日)～10月26日(金)  
(パネル展示)
- ・ 日本画作品展 9月9日(日)～10月25日(木)

### ♪☆お知らせ・ご案内☆♪

もみじ祭り 10月27日(土)～11月18日(日)

期間中、紅葉クイズラリーでプレゼントゲット！

もみじ祭りお楽しみイベント 11月11日(日)10:00～15:00

場所;レストハウス前ほか

森でおさんぽフリマ、落ち葉あつめ、ノルディック・ウォーク、木工クラフト

わなげ、ミニグラウンドゴルフ、ネイチャーゲーム、各種販売

### ～ 森林公園 イベント情報 ～

臨時休園中のため下記イベントを広島県緑化センターで行います。

- ・ 10月13日(土) ネイチャーゲーム  
13:00～15:00 (多目的広場・緑の相談所)
- ・ 10月20日(土) バルーンロケット  
10:00～14:00 (芝生広場)
- ・ 10月21日(日) 草笛講習会  
13:00～15:00 (レストハウス裏庭)
- ・ 10月28日(日) ハロウィンおばけパレード  
10:00～14:00 コスチュームをつくろう  
(緑の相談所)



つづらふじ 手作りカゴ作品展より



日本画作品展より

### ～ 森林公園・こんちゅう館 臨時休園のお知らせ ～

7月の西日本豪雨のため、当分の間臨時休園します。  
ご迷惑をおかけしますが、  
ご理解とご協力をお願いいたします。